

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年11月14日（金）

2 確認箇所

- ・5号機原子炉建屋（図1）
- ・5・6号機タービン建屋（図1）

3 確認項目

- (1) 5号機原子炉建屋における地震計の設置状況
- (2) 5・6号機タービン建屋滞留水の状況

4 確認結果の概要

(1) 5号機原子炉建屋における地震計の設置状況

東京電力では、原子炉建屋内の地震観測のため、5号機及び6号機の原子炉建屋に地震計を設置している。このうち、5号機原子炉建屋には基礎版上（地下1階）及び地上2階に地震計が設置されている。

東京電力は、6号機原子炉建屋の基礎版上（地下1階）の地震計を発電所の運用（関係各所への連絡・公表、地震後の区分に応じた点検）に利用しており、最大加速度を速やかに公表している。

また、5・6号機原子炉建屋にある他の地震計についてはバックアップとして用いるほか、各種分析に利用している。

なお、6号機原子炉建屋基礎版上の地震計が点検中の場合は、5号機原子炉建屋の基礎版上の地震計を代替で運用し、観測値を速やかに公表している。

今回は、6号機原子炉建屋の地震計の代替となる5号機原子炉建屋の地震計の状況を確認した。（前回確認：令和5年4月6日）

- ・5号機原子炉建屋地下1階及び地上2階に設置されている地震計はシートで覆われていた。地震計の周りに転倒する可能性がある物はなかった。（写真1、2）
- ・地震計及び地震計に接続されているケーブルに損傷等の異常は認められなかった。（写真1、2）
- ・地震計の周囲は緑色の線で囲まれており、「仮置き禁止エリア」と標示されていた。（写真2）

(2) 5・6号機タービン建屋滞留水の状況

東日本大震災以降、サブドレン設備の停止により5・6号機建屋地下階に地下水が流入している。当該設備の復旧工事※が完了し、令和4年3月

28日から、建屋周囲の地下水汲み上げを再開しているものの、5・6号機建屋地下階への地下水の流入は継続している。

5・6号機建屋地下階に溜まっている地下水（以下「滞留水」という。）は、F1タンクエリアに移送され、浄化処理された後、構内に散水されている。（前回確認：令和6年4月8日）

本日は、5・6号機タービン建屋地下階において、滞留水の状況を確認した。（前回確認：令和7年9月8日）

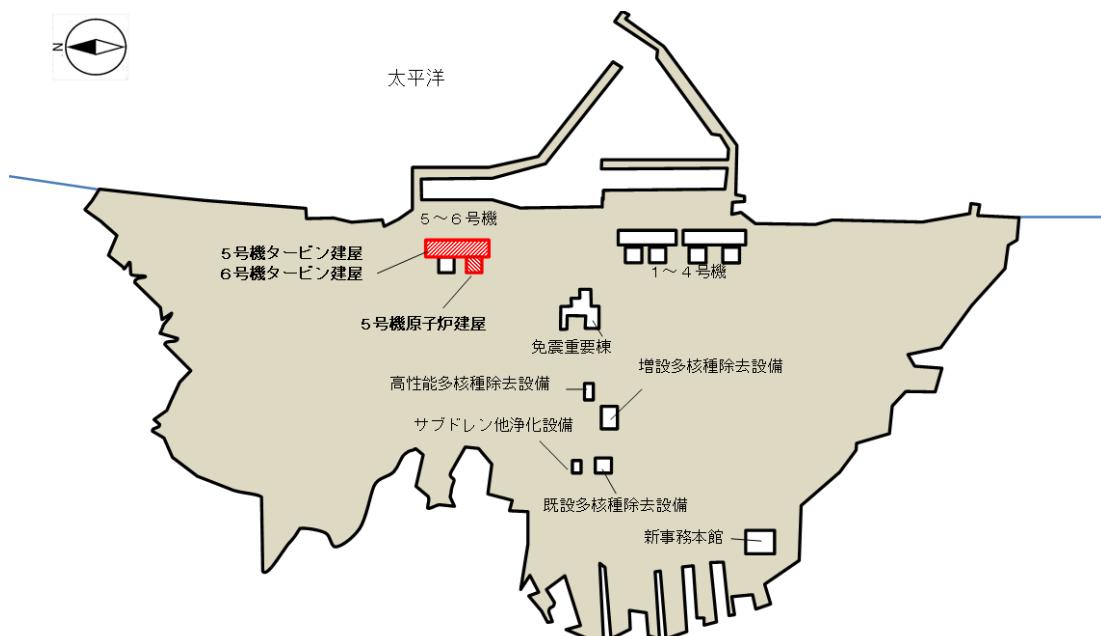
- ・5号機及び6号機のタービン建屋地下階における滞留水の状況を確認した結果、水位は5号機で約30cm、6号機で約80cmであった。

（写真3）

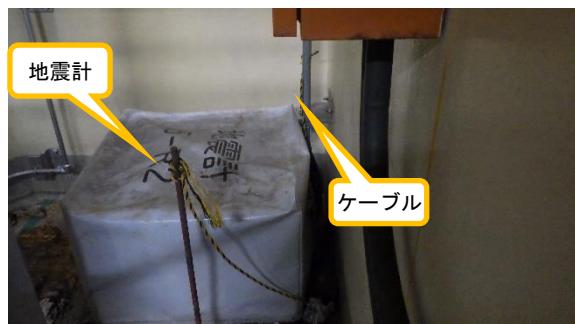
- ・5号機及び6号機の移送ポンプ流量計の流量から、現場確認時、滞留水の移送（5号機タービン建屋→6号機タービン建屋、6号機タービン建屋→F1タンクエリア）は行われていないことを確認した。（写真4）
- ・確認した範囲においては、滞留水を移送するための配管からの水漏れ等の異常は認められなかった。（写真5）

※5・6号機サブドレン設備復旧工事

東日本大震災以降稼働を停止していた5・6号機建屋周辺のサブドレン設備（地下水くみ上げ設備）を復旧するための工事。サブドレン設備の復旧により地下水位を低下させ、建屋に流入する地下水の量を抑制できる。

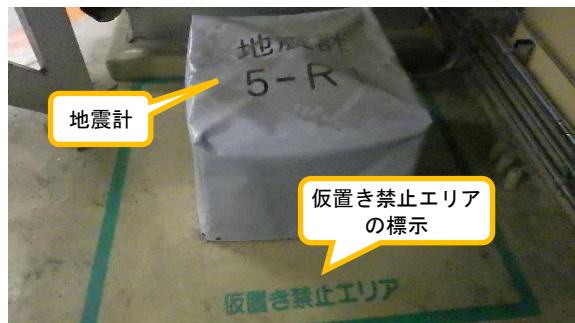


（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1)

地震計（基礎版上（地下1階））の設置状況



(写真 2－1)

地震計（地上2階）の設置状況①



(写真 2－2)

地震計（地上2階）の設置状況②



(写真 3－1)

5号機タービン建屋地下階の滞留水の状況



(写真 3－2)

6号機タービン建屋地下階の滞留水の状況



(写真4)
5号機タービン建屋滞留水移送ポン
プ吐出流量計



(写真5-1)
5号機タービン建屋地下階における
滞留水移送配管の状況



(写真5-2)
6号機タービン建屋地下階における
滞留水移送配管の状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。